

E-1 定年後の適応(オ1報)——定年退職後の個人的適応——

お茶の水女大家政 袖井孝子 ○大越容子
福岡教育大 高橋久美子

目的 定年は、労働者の生活周期段階を区切る重要な出来事であり、それを契機として個人またはその個人が属する家族に対しさまざまな変化をもたらす。ここでは定年退職者と其の妻が、その変化にどのように適応していくかを夫婦の個人的レベルと、夫婦適応の側面からとらえ、この周期段階における夫婦の生活満足度と結婚満足度の規定要因を明らかにすることを目的とする。

方法 新潟県、東京都、神奈川県在住で、昭和45年以降に定年退職を経験した者1900名に対し、ハガキで定年退職年度の確認と調査協力の意志を問い合わせ後に調査票を送付し、夫と妻それぞれが記入をした。有効票数は565組である。

結果 定年後の夫婦が、その個人的レベルにおいてどのような適応を示すかを、複数の質問にたいする回答の合計点によって生活満足度をとらえるLife Satisfaction Index Aを用いて測定した。生活満足度の規定要因をさぐるために、定年後の生活変化に対する評価、結婚満足度、夫婦の情緒的統合要求の充足度、身体的健康度、家族構成、収入階層、社会的個人的活動状況それぞれとの関連を検討した。

定年退職後夫婦の生活満足度と結婚満足度および情緒的統合要求の充足度との間には強い関連がみとめられた。健康や活動レベルは生活満足度の規定要因となつてはいるが、家族構成、世帯総収入に関しては有意な関連をみいだすことができなかった。このことから、生活満足度は社会的経済的要因に直接規定されるのではなく、状況の認知や状況への適応のような情緒的因子を媒介していることが確認された。